

文 献	対 象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結 果	有害事象	エビデンスレベル	備 考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 病数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ	① RCT or 非RCT(対象群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記号対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実施の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法
① 十字文子, アレルギー52(11):1081 ② 2003 ③ 1 ④ 日本	① 22例, ② 6~56歳, ③ 重症5, 中等症11, 軽症6 ④ -	① 非RCT, ② 対象なし, ③ Cohort, ④ 減感作施行群10例, 未施行群12例, ⑤ 患者群に免疫療法をして一年後のCAST法による末梢白血球のLT産性を調べた, ⑥ 比CASTの値, ⑦ 一年	① CAST Stimulation Index, ② 皮膚の症状, Rajka & Langeland Index, 外用ステロイド使用量	4	追跡し得た6名はCAST indexが落ちてきている, 外用ステロイド使用量, 臨床症状も改善が見られた	なし	4	① なし, ② なし, ③ なし, ④ なし
① 尾藤 利憲, 日本皮膚アレルギー学会雑誌11(3):122-7 ② 2003 ③ 2 ④ 日本	① 17例, ② 7-51歳, ③ 評価せず, ④ SCORAD Score 16, 5-72	① 非RCT, ② 対象なし, ③ Cohort, ④ 減感作群17名, ⑤ 減菌フィルターをかけた自己の汗を減感作療法としてInjectionにて投与した, ⑥ 対象なし, ⑦ 6ヶ月	① SCORAD score, VASによる痒みスコア, ② -	5	SCORAD score は改善傾向があるも有意差は出ず, 痒みScoreのみ有意差を持って改善していた	なし	4	① なし, ② なし, ③ なし, ④ 詳細な記載なし
① Oostin AJ, et al. J Allergy Clin Immunol 110(3):500-6 ② 2002 ③ 3 ④ Netherlands	① 86例, ② 8~50歳, ③ LSS severity active treatment群14例, placebo群17例, ④ HDM RAST \geq 0.7 and/or 皮膚テストindex \geq 0.7 マットレスの塵中のDer p 1 またはDer f 1 濃度 \geq 200ng/g dust	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ active群45例, placebo群41例, ⑤ Goretex bedding systemで患者の寝室の全てのベッドのマットレス, 羽布団, 枕を包む, ⑥ cotton encasingsで患者の寝室の全てのベッドのマットレス, 羽布団, 枕を包む, ⑦ 12ヶ月	① 臨床皮膚スコア, ② -	13例: 転居 2. ストレス 1. 妊娠2. AD悪化1, class3ステロイド軟膏使用 1. 不明1, 塵サンプル不完全4	ダニを通過させないカバーによりDer 1抗原量が有意に減少。しかし, 抗原量の減少と臨床指標とは有意な相関なし。ADの症状改善には他の環境(職場, 学校, 屋外)における抗原の減少が同様に重要かもしれない	不明	1	① ITT, ② なし, ③ なし, ④ 抗ヒスタミン薬, class 2ステロイド軟膏は使用可
① Koopman LP, et al. Am J Respir Crit Care Med 166(3):307-13 ② 2002 ③ 4 ④ Netherlands	① 1327例, ② 不明, ③ 不明, ④ アレルギー疾患を有する妊娠後期(3rd trimester)の妊婦	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ 介入群810例(active群416, placebo群394), 非介入群472例, ⑤ ポリエステル綿マットレスカバー, ⑥ プラセボ介入群: 綿プラセボカバー, 非介入群: カバーなし, ⑦ 3rd trimester~産後2年まで: 合計2年3ヶ月	① 乳児の臨床症状, ② Der p 量, 血清総IgE値, 抗ダニIgE抗体価	45例 詳細不明	妊娠後期から2歳までの乳児期のダニ通過阻止マットレスカバー使用により2歳の乳児期の夜間咳嗽がプラセボ群に比して改善。他の呼吸器症状, AD, 総IgE値, 抗ダニIgE抗体価には変化なし。長期経過の検討が必要	不明	1	① ITTなし, ② なし, ③ なし, ④ 不明
① Gutgesell C, et al. Br J Dermatol 145(1):70-4 ② 2001 ③ 5 ④ Göttingen, Germany	① 20例, ② 18~30歳, ③ 中等症~重症, ④ 抗Der p CAP RAST>3, 患者マットレス塵中のDer p 1量>2ug/g dust, ペット飼育なし	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ 各群10例, ⑤ アレルゲン通過阻止マットレスカバー, tannic acidとbenzylbenzoate含有のスプレー, ⑥ アレルゲン透過性マットレスカバー, 水とごく微量のエタノール含有スプレー, ⑦ 1年間	① SCORAD index, ② Der p 1量, 血清ECP値	なし	成人ADにおいては1年間のダニ除去はアレルゲン量を減少させるが, 疾患の活動性の改善は得られなかった	不明	1	① 脱落例なし, ② なし, ③ なし, ④ 局所療法のみ可
① Holm L, et al. Allergy 56(2):152-8 ② 2001 ③ 6 ④ Stockholm, Sweden	① 43例, ② 18歳 \leq (active: 31[18-65], placebo: 30[22-53]), ③ SCORAD active: 47(22-79), placebo: 40(15-75), ④ -	① 非RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ active 22例, placebo 18例, ⑤ active group: polyurethane-coated cotton encasings 12ヶ月, ⑥ placebo group: cotton cover 12ヶ月, ⑦ 12ヶ月	① SCORAD index, ② Der 1抗原量, Fel d 1抗原量, 抗ダニIgE抗体価, sCD23値	3例	寝具をpolyurethane-coated cotton encasings で包むことで寝具からのダニ曝露量及び湿疹の重症度を有意に減少させ, sCD23レベルを有意に減少させる。ダニに感作されていないあるいはダニアレルギーに罹患していない患者にもベッドカバーの使用は寝具内の他の重要なアレルゲン, スーパーアンチゲン, 刺激物への曝露量の減少により有効である。従って, ベッドカバーの使用はADの治療の一環として推奨する	不明	2(同時対照群のある非RCT)	① 不明, ② なし, ③ なし, ④ mild topical steroids, emollients, short-term antibiotics
① Ricci G, et al. Br J Dermatol 143(2):379-84 ② 2000 ③ 7 ④ Blagna, Italy	① 41例, ② 平均3.9歳, ③ -, ④ -	① RCT, ② ParallelのうちCross over, ③ Cohort, ④ A(介入群)21例, B(対象後介入群)20例, ⑤ 環境中のダニアレルゲンの除去を積極的に行いそれを一年間続ける群をA群, 2ヶ月間対象として追跡調査しその後ダニの除去の指導をする群をB群とした, ⑥ 防ダニシーツと枕カバーを用い掃除の指導を行うことによってダニの発生を抑える。対象は指導をしない。対象は2ヶ月間そのまま経過を観察した後抗原回避の指導をする, ⑦ 1年間	① SCORAD index の変化, ② -	なし	防ダニの指導をすることによってハウスダスト中のDer 1量は低下し, それに伴って皮膚のSCORAD indexも改善する	不明	1	① なし, ② なし, ③ 有り, ④ 一時的な抗ヒスタミン剤服用と, 局所ステロイド療法

文献	対象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 総数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ	① RCT or 非RCT(対象群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法
① Mastrandrea, F, et al. Allergol Immunopathol (Madr) 28 (2) : 54-62 ② 2000 ③ 8	① 36例, ② 3-28歳, ③ 軽症から中等症まで, ④ -	① non-RCT, ② 記録対象, ③ Retrospective, ④ A群16例, B群19例, 対象なしの症例集積研究, ⑤ アトピー性皮膚炎単独の患者(A群), アトピー性皮膚炎に中等症までの気管支喘息を合併した患者(B群)に対して舌下投与の特異的免疫療法を行った結果を対象症例がない症例集積研究としてまとめた, ⑥ 対象なし, ⑦ 6年間	① SCOR AD index 消失, ② -	なし	アトピー性皮膚炎だけのもの、気管支喘息合併の患者ともアトピー性皮膚炎の症状が完全になくなったものが約70%であった	皮膚発赤の再悪化, 下痢, 軽度のアナフィラキシー (Urticaria)	4	① なし, ② なし, ③ Open test, ④ ケトチフェン, 局所ステロイド, 経口ステロイド, 抗生剤 併用可能
① Friedmann PS, Tan BB. Allergy 53 (48 Suppl) : 97-100 ② 1998 ③ 9 ④ Southampton, UK	① 60例, ② 7~65歳, ③ -, ④ -	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ 開始時60例, 終了時48例, active group 28例, placebo group 20例, ⑤ Goretex polyurethane bedding system, benzyltannate complex spray for the carpetsを50 ml/m2の割合で3ヶ月に1回実施, a high-filtration vacuum cleanerをカーベットは毎日, 家の残りの部分は2~3回/週使用, ⑥ light cotton bedcovers, water with a trace of alcohol spray for the carpetsを50 ml/m2の割合で3ヶ月に1回実施, a standard upright vacuum cleaner with a poor filtration performanceをカーベットは毎日, 家の残りの部分は2~3回/週使用, ⑦ 6ヶ月	① アトピー性皮膚炎の面積と重症度, ② -	12例	Gortex bed bagsはベッド内にゴミを封じ込めることで非常に効果がある。本効果とアトピー性皮膚炎患者の臨床症状の改善と関連する。特に最も重症な患者に最大の効果がある	不明	2	① ITTなし, ② なし, ③ なし, ④ 布製の家具, 玩具は寝室内には最小限とする。実施期間は6ヶ月
① Tan BB, et al. Lancet 347 (8993) : 15-8 ② 1996 ③ 10 ④ Liverpool, UK	① 60例 (30成人, 30小児), 48例 (24成人, 24小児), ② 成人 平均30歳, 小児 平均10歳(脱落除く), ③ スコア20~25, ④ アトピー素因有り(皮膚テスト)	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ active treatment群28例, placebo群20例, ⑤ Goltex bedcovers, benzyltannate spray, a high-filtration vacuum cleaner, ⑥ cotton covers, water, a conventional domestic vacuum cleaner, ⑦ 6ヶ月	① 重症度, ② 塵収量, Der p 1量	12例 (10例はランダム化後治療前, 2例はプロトコール違反)	ADの活動性は効果的なダニ除去で非常に低下した。ダニ除去が有用な患者の選定法について検討が必要。	不明	2	① ITTなし, ① なし, ③ なし, ④ めいぐるみ玩具は寝室に持ち込まない。Normal rangeの治療は可
① Galli E, et al. Allergol Immunopathol (Madr) 22 (1) : 18-22 ② 1994 ③ 11 ④ Rome, Italy	① 60例, ② 7歳から17歳まで, ③ 軽症から中等症まで, ④ -	① RCT, ② Parallel, ③ Cohort, ④ A群26例, B群16例, C群18例 (Control), ⑤ 小児アトピー性皮膚炎患者を三群に分けた: 気道症状有りの患者, アトピー性皮膚炎のみの患者, アトピー性皮膚炎対照群, ⑥ アトピー性皮膚炎のみの患者の自然経過を観察, ⑦ 追跡期間 3年間	① 皮膚症状の改善, ② なし	なし	Der pより作製したエキスをを用いて小児のアトピー性皮膚炎に対して経口減感作を行ったが、何ら自然経過を変えるものではなかった	なし	1	① なし, ② なし, ③ なし, ④ 詳細なし
① Sanda T, et al. Allergy Clin Immunol 89 (3) : 653-7 ② 1992 ③ 12 ④ Nagoya, Japan	① 51例, ② 8~75歳, ③ Grade 4.5以上, ④ 抗Candida, cat, dog, Japanese cedar IgE抗体陰性	① 非RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ A群30例: 抗ダニIgE抗体 ≥ 3 , CR治療, B群11例: 抗ダニIgE抗体=0, CR治療, C群10例: 抗ダニIgE抗体 ≥ 3 , CR治療なし, ⑤ A,B群患者は、トイレ以外には3~4週間クリーンルームから出ない, ⑥ C群患者は、一般病室で外出自由3~4週間, ⑦ 3~4週間	① 臨床症状, ② -	不明	CR治療はAD患者にとって有用である。その有効性は、ダニの糞を排除することによる	不明	2	① 不明, ② なし, ③ なし, ④ 全身療法は禁, 局所ステロイドは可
① 宮内恵ほか. 治療学, 26 (8) : 979-82 ② 1992 ③ 13 ④ Tokyo, Japan	① 19例, ② 不明, ③ 中等度以下の外用剤と内服薬でコントロールできない症例, ④ -	① 非RCT, ② 症例集積研究, ③ 後ろ向き, ④ Controlとしての対象なし, ⑤ Millerの中和法を応用した減感作療法を行う, ⑥ 比較対象なし, ⑦ 記載なし	① 臨床症状, ② 血清総IgE, 血清特異的IgE	なし	紅斑の現象と皮疹部掻痒の低下傾向を認めた。内服量の現象やより弱い外用薬でも症状のコントロールが可能となった。コナヒョウヒダニの特異的IgEが低下した	不明	5	① なし, ② なし, ③ なし, ④ 外用薬, 内服抗ヒスタミン薬
① Glover MT, et al. Clin Exp Allergy 22 (4) : 440-6 ② 1992 ③ 14 ④ London, England	① 26例, ② 平均10.26歳 (5~16歳), ③ 重症, ④ 過去に減感作療法の経験なし	① RCT, ② 同時対照(parallel), ③ 前向き, ④ active群13例, placebo群11例, ⑤ チロシン吸収D. pteronyssinusグリセリン含有抗原液, 皮下注射, 週1回漸増法6週間, その後維持量(400 Noon units) 月1回6ヶ月, ⑥ チロシン浮遊液のみを同様の方式で実施, ⑦ 第1相 8ヶ月, 第2相 6ヶ月	① 症状日記, ② -	なし	Dpによる減感作療法は標準の8ヶ月コースではプラセボと有意差なし。さらに長期間実施するとプラセボよりも効果があるかもしれない。ただし、長期実施症例数が少ないので明確な結論は出せない		1 (第1相)	① ITT, ② なし, ③ なし, ④ 不明

文献	対象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 病数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ	① RCT or 非RCT (対象群 10 例以上, 比較群 10 例以上, 計 20 例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後ろ向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間 (導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は "不明" と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載 (結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は "不明" と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法
① Nahm, D. H, et al. Int Arch Allergy Immunol 146 (3) : 253-40 ② 2008 ③ 15 ④ Korea	① 20例, ② 7-58歳 (24±11), ③ 通常のステロイド、一般的な外用療法、経口抗ヒスタミン剤にて6ヶ月間に軽快しない患者, ④ SCORAD values 27.8 +/- 18.3	① 非RCT, ② 対象なし, ③ Cohort, ④ 各群の例数: Subject 20例, ⑤ 実際の方法 (薬剤, 防御方法) HDM extract+Histamine-Immunoglobulin complex injected, ⑥ 比較対象の内容なし, ⑦ 追跡期間 12ヶ月	① SCORAD Valueの変化, ② -	2	アトピー性皮膚炎は有意差をもって改善されている。 (SCORAD values 27.8 +/- 18.3より18.3 +/- 14.9へ)	局所反応が見られたのみ	4	① なし, ② なし, ③ なし, ④ 随時外用ステロイド, 経口抗ヒスタミン剤, 悪化時の短期の経口ステロイド
① Pajno, G. B, et al. J Allergy Clin Immunol 120 (1) : 164-70 ② 2007 ③ 16 ④ Italy	① 56例, ② 5-16歳, ③ Mild-Moderate, AD, ④ SCORAD : 32±7	① RCT, ② Parallel, ③ Cohort, ④ 各群の例数: Subject : 28例, control : 28例, ⑤ SLIT : Extract include Der p 1 4.3 micro G/ml and Der f 13.5micro G/ml mixed x 250micro L, 3times/week is keeping dose, ⑥ SLITの有りなし, ⑦ 追跡期間 18ヶ月	① SCORAD indexの変化, ② VAS score	Placeboより4人脱落	9ヶ月より18ヶ月目までに渡ってSLITを行っていた患者群では有意にSCORAD scoreが低い。特に軽症中等症の患者では、SCORADばかりかVASまで有意差をもって改善している。Der p 1とDer f 1のSLITはアトピー性皮膚炎に効果あり	実薬群で6症例, 偽薬群で1症例あり。 実薬群: 口腔, 顔面の痒み	1	① なし, ② なし, ③ なし, ④ なし
① Arshad, S. H, et al. J Allergy Clin Immunol 119 (2) : 307-13 ② 2007 ③ 17 ④ England	① 120例, ② 8歳, ③ 家族の中に重症のアトピー患者がいるもの, ④ -	① RCT, ② Parallel, ③ Cohort, ④ Active:58 Control:62, ⑤ 母親の食物中アレルギー原物質の除去をした母乳の投与, 食物アレルギーを一年目まで除去, ハウスダストの除去, ⑥ 通常一般的な育て方, ⑦ 8年間	8年時のAsthma, AD, AR, Food allergyの ① 有病率 ② Food allergyの感作率, HDに対する感作率, すべてのアレルギーに対する感作率	なし	Adjusted riskにおいてOR 0.23 p=0.005となり, アレルギーの危険性を持つ子供がアレルギーを避けることは有用である	なし	1	① ITTなし, ② なし, ③ なし, ④ 不明
① Cadario, G, et al. Curr Med Res Opin 23 (10) : 2503-6 ② 2007 ③ 18 ④ Italy	① 86例, ② 3-60歳, ③ Mild and Moderate AD, ④ SCORAD 43.3±13.7, RAST to HDM 294±38, RAST, Class II 以上	① 非RCT, ② 対象なし, ③ Cohort, ④ 全員についてSLITを行った, ⑤ 舌下特異的免疫療法HDM, ⑥ 対象なし, ⑦ 12ヶ月	① SCORAD Value, ② 血清中の特異的IgE	0	SCORADは明らかに差が出てきている。平均値の違い19.6である	明らかな有害事象は認められていない	4	① なし, ② なし, ③ なし, ④ Group III までの外用ステロイド剤, その他の外用薬
① Corver K, et al. Pediatr Allergy Immunol 17 (5) : 329-36 ② 2006 ③ 19 ④ Germany	① 1327例, ② 4歳, ③ 生前コホート, アトピーの妊娠中の母親, ④ 男児の比率がactiveに多い	① RCT, ② Parallel, ③ Cohort, ④ active 416例, placebo 394例, natural history study 472例, ⑤ RCTにてActive, Placebo, Natural historyの3群に分ける。Placebo に通常のカバーをActive群に防ダニシートを使用してもらい3群間でのアレルギー疾患の発症率を比較する, ⑥ 3群間でのアレルギー疾患の発症率を比較する, ⑦ 今回4年目	① アレルギー疾患の発症率 (アトピー性皮膚炎を含む), ② 特異的血清IgEの値	Active 92 Placebo 115 Natural history 56	生直後から, 4年目において防ダニカバーではアレルギー疾患 (アトピー性皮膚炎を含む) の発生率を下げる事が出来ない	記載なし	2	① なし, ② なし, ③ なし, ④ 記載なし
① T. Werfel, et al. Allergy 61 (2) : 202-5 ② 2006 ③ 20 ④ Germany	① 89例, ② 56歳, ③ SCORAD Value => 40, ④ CAP HDM Class>=3	① RCT, ② Parallel, ③ Cohort, ④ 20SQ : 28例, 2000SQ : 28例, 20000SQ : 33例, ⑤ HDMのExtractを皮下注, ⑥ 比較対象の内容: 維持量 20, 2000, 20000, としそれぞれを比較検討した, ⑦ 12ヶ月	① SCORAD Value, ② corticosteroids and antihistamines の変化 と IgE の変化, ECP levels for the same period	20SQより2例, 2000SQより2例, 20000SQより8例脱落	20SQのActive placeboと比べて20000SQ群は有意差をもってSCORAD Value が減っている。Dose response関係もあり。SCI量依存的に局所ステロイド使用量は減少した	のべ注射回数の1%以下	1	① なし, ② なし, ③ なし, ④ Class IIIまでの局所ステロイド剤, 経口抗ヒスタミン剤